

平成14年度
みよしまち 共に生きる女と男のセミナー

- 平成14年12月21日(土)
「桂文也のジェンダーブレイク(落語と講演)」桂文也氏(落語家)
- 平成15年1月16日(木)
「主婦が働きにでるとき」塩田咲子氏(高崎経済大学教授)
- 平成15年1月23日(木)
「女の老後は夫次第？」塩田咲子氏(高崎経済大学教授)



【共に生きる女と男のセミナー②】
「桂文也のジェンダーブレイク」に参加して 静間浩美

小5の娘と一緒に参加させて頂きました。桂文也さんの楽しい話術にひきこまれ、楽しく、時には大笑いしながらジェンダーについて学ぶことができました。「女の子なのだから〇〇しなさい！」と言われることに日頃から抵抗のあった娘は「人間なのだから〇〇しなさい！というべきなんだよね」と納得顔でした。

私も男らしさ・女らしさということよりも人間らしさ、自分らしさを大切に子育てを心がけようと思いました。当たり前と思っている日常生活の中でジェンダーに気付いていく感性を大切に、まずは自分の周囲から少しずつ変えていこうと思います。

【共に生きる女と男のセミナー③④】
「主婦が働きにでるとき～女性の働き方～」
「女の老後は夫次第？～女性と年金～」に参加して 高橋英児

講座の内容は次のようなものであった。終身雇用、年功序列型賃金の流動化、少子高齢社会の到来で日本経済、家計の支え手として女性も働くことが必要となってきた。しかし、主婦が働く場合年収103万円をこえると配偶者控除に影響がおこる。また、現行年金制度では年収130万円以内では第3号被保険者で保険料の支払いが不要という制度のしくみにより、働きを調整している現状があるとのことであった。自営業者の妻とサラリーマンの妻とでは保険料を支払う必要のあるなしという大きな格差、支払った額がそのまま反映されない受取額、また夫が死亡した場合の遺族年金の額など、夫が厚生・共済年金加入者の主婦優遇という年金制度の問題点は年金財源の弱体化や不公平感からも、調整する必要がある。2004年の制度改正で賢明な選択が必要と痛感し注目したい。

平成14年度 みよしまち男女共同参画推進状況

三芳町男女共同参画推進会議ってなに？

- メンバーは公募や推薦によって選ばれた方です。
- 三芳町の男女共同参画推進のための意見をお聞きしています。
- 情報誌の作成やセミナーの運営などさまざまな企画に参画しています。
- 町の男女共同参画プランの進捗状況を確認し、プランの実効性を高めていきます。



【男女共同参画推進会議に参加して】倉林昌子

小さな子どもたちは、性別にかかわらず、みな夢や希望を持っています。今日より明日、明日よりあさって、よりよい自分でありたいと思っています。一人ひとりの良さを生かして、成長して欲しいです。子どもたちが幸せな町はきっと大人にとっても住みやすい場所になるでしょう。すべての女(ひと)と男(ひと)にとって、緑とぬくもりのある町でありたいものです。この会議でまちづくりのお手伝いが少しでもできたらと願っています。



【男女共同参画推進会議に参加して】神川恭子

「若い人にも参加してほしいから、参加してくれませんか？」「いいですよ。」二つ返事で推進委員への参加を決めたのはいいけれど、実際には私の男女共同参画への意識はそれまで全然ありませんでした。また、恵まれた職場で仕事をしていることもあり、職場で女性だから不利益を受けたという意識もありませんでした。今までの人生で、「ジェンダーフリーな社会に！」と声高に言う必要性を感じていなかったのです。しかし、この会議に参加し、介護の問題や女性の昇進などの問題を話し合っているうちに、私がこれから歩むであろう人生には色々な障害が待ちかまえているのだなと感じました。また、今まで意識していなかった社会の中に潜んでいるジェンダー(黒いランドセルは男の子用、赤いランドセルは女の子用というのは当たり前!?)に気付いた時、無意識の中の意識が性差別を生み出しているのだなと思うようになりました。



【日本女性会議2002あおもり(10/4~5)に参加して】向吉孝子

「私は私を大切に思うのと同じ重さであなたを大切に思う」をテーマに全国から女と男が集い、あらゆる角度から熱い思いが展開された。1日目は10の分科会、3つのワークショップから始まり、私は第3分科会「個人で生きられる社会」に参加。3人の講師から個人を尊重する社会をめざした経験豊富な話は印象的で、特に国広講師の生き方にはその大きなエネルギーに感動した。未来社会のシステムを世帯単位から個人単位へなどの話は現状を考える機会となる。ねぶたの里での交流会は、全国各地の方々との情報交換等で、盛り上がった。2日目は、全体会・記念講演「平等、平和、地球市民としての私たち」を幸淑玉さんがさわやかな講演で会場を一つにした。私は第7回の藤沢から参加し続けており、今回第19回は企画財政課の百富さんとの二人旅。前回の水戸から職員の参加があり大変うれしい。三芳町も男女共同参画推進へ一歩前進。共に輝ける生涯を希望し今後の活動の活力としていきたい。

三芳町の男女共同参画推進状況

- 1 これまでの主な動き(三芳町)
- 1983年 「児童課」に「婦人児童係」を設置
 - 1984年 「三芳町婦人に関する意識調査」実施
婦人のつどい・講演会開催
 - 1985年 婦人のつどい・講演会開催
報告書「三芳町の女性」発行
 - 1986年 婦人のつどい・講演会開催
 - 1987年 「ミズ・トゥモロー」学習室を開設
「児童課」を「婦人児童課」に改称
 - 1988年 第1回「女性セミナー」開催
(1997年までの10年間シリーズで女性セミナーを開催)
 - 1990年 婦人児童課に婦人担当窓口(婦人係)を設置
第2回「三芳町婦人に関する意識調査」実施
 - 1992年 「三芳町女性行動計画一男女平等社会の確立を目指して」策定
「婦人児童課」を「女性児童課」に改称
 - 1997年 女性セミナー10周年記念講演会開催
 - 1998年 共に生きる女と男のセミナー開催
(女性セミナー10年を終えて内容や形式を一新して男女共同参画の推進を目的に、毎年「共に生きる女と男のセミナー」を開催している)
 - 1999年 「三芳町男女平等に関する住民意識調査」実施
 - 2000年 「みよしまち 女と男の共同参画プラン」策定
町制30周年記念「女性議会」の開催
男女共生に関する担当係が「企画財政課政策推進係」に移管
 - 2002年 「三芳町男女共同参画推進会議」発足
「女性相談(フェミニスト・カウンセリング)」の開設